

## 8. 課題解決への過程を楽しむ

防災にかかわることを、特にボランティアなどを行われている人は、さまざまな切り口で活動されています。おそらく知識の切り売りではない実践的な役に立つことを大きな目標にしてやってくるからだと思います。そして、多くの人と接していく中で、課題や問題点が見えてくることを実感されているのではないのでしょうか。何を、どのように、どんな方法でということでは時には自己嫌悪を感じつつ試行錯誤していることが良くわかります。

防災への取り組みにはさまざまなものがあると思いますが、基本となるのは自然災害がどこで、どのように起きるのかを知っておくということです。そうでないと、避難所に直行することだけで済むこともあります。状況によっては違う避難の仕方もあるかもしれませんし、錯綜する情報を適切に整理して判断することが求められるかもしれません。以下は、これまでの自分自身を省みて、取り組む上で大切なことについて自戒をこめて述べてみます。

災害に対して、先頭に立って取り組もうとしているものにとって、重要なことは多様な人と共生していくためには、必要とされる基礎力があるようです。これは、職場でも地域社会でもお付き合いする人は多様ですので、少なくとも3つの能力というか忘れてはいけないことがあります。

一つは前に踏み出す勇気、取り組みで、主体的で、働きかける意欲、実行力。

二つ目は疑問を持って考えることで、自己満足にならないようにフィードバックする。ややもすると、一方的になってしまったり理解されないばかりか、関心を殺ぐことになってしまいます。したがって、求められるのは課題発見力、解決への手順、プロセスを明確にする力、新しい構想や方法を案出する力ということです。

いわば問題意識を忘れないということになるのかもしれませんが。

三つ目は、相手に伝える能力やツールを持つこと。相手の話を理解して聞く力、いわば柔軟性も意識しておく必要があります。

これらの力は、専門的な知識をベースに、役に立つ方法を一緒に考えていくという姿勢にもつながるわけで、意識して取り組む中で醸成されるものかもしれません。

われわれが防災に取り組む活動は、自然の実態を理解してそれへの対応を伝達するというで行っていますが、日常の生活や地域の歴史、社会と関連づけることが大変重要だと思います。そうしないと一過性の伝達になってしまいますので、自然災害

に対して関心をつなぐということから、汎用的技能を駆使しながらスキルアップも欠かせないと思っています。